RESAS政策立案ワークショップ

長野県塩尻市 「地域製造業の『稼ぐ力』の分析と強化策」

関東経済産業局

- 市内製造業では大規模事業所と地域中小企業が並存している中、『稼ぐ力』を検証するため分析。
  行政職員のほか、金融機関や産業支援機関が参加。様々な観点からディスカッションを実施。
- 製造業の産業構造が二重構造となっており、企業単位では他市と比較し労働生産性が低いことをデータにより確認。
- 今後の施策案として、幅広い製造業種を対象に付加価値を向上させる施策について議論。

実施概要

日時：平成29年8月25日（金）

会場：塩尻市市民交流センター（えんぱーく）

テーマ：「地域製造業の『稼ぐ力』の分析と強化策」

参加者：23名
（市役所職員、金融機関、商工会議所）

有識者：東京大学大学院 総合文化研究科
教授 松原 宏 氏

使用したRESASのデータ：
全産業の構造、稼ぐ力分析 等

その他利用したデータ：
総務省「地方財政状況調査」
総務省「国勢調査」

会場全体

松原教授の分析

現状分析：企業単位では、黒字ではあるが低付加価値額の業種が多い

- ■ 塩尻市には情報通信機械器具製造業の大規模事業所が存在。雇用や税収を支えている大きな基盤となっている。
- ■ 企業単位では特化係数の高い業種が多く存在しているが、突出した業種はない。
- ■ 企業単位で製造業の産業構造類似都市および近隣都市と比較すると黒字企業比率は高いものの、労働生産性は低い。

課題把握のため、製造業の付加価値額を使用。企業単位で製造業構成比を見ると突出した業種がないことがわかる。

課題把握のため、製造業の労働生産性を使用。企業単位で近隣や構造類似都市と比較、労働生産性が低いことがわかる。

施策提案： 地域製造業の付加価値向上

- □ 保有済み設備や技術を活用しながら新分野へ進出し付加価値を高める。
- □ 地域の強みである高度技術を活かすため、生産工程や技術の高度化としてIT、IoT関連産業集積を活用
- □ 地域全体で人材育成・確保ができるプラットフォームの構築
- □ 大規模事業所の工場立地支援や地域製造業との連携の場の提供